

わたしと妹とりにゅう食

宮崎市立西池小学校 3年 後藤 陽菜乃

わたしには生後五か月の妹がいます。妹はさい近りにゅう食がはじまり、お母さんはさいしょに十倍がゆを食べさせていました。お母さんが妹のはじめてのりにゅう食のためにおいしいお米を買ったと言っていたので、わたしは妹のごはんを食べるすがたを見るのがとても楽しみでした。

妹がはじめて十倍がゆを食べた日、妹はふしぎそうな顔をしておかゆをペロツとなめていました。三日目は前のめりに口を出して、ほしがっているようでした。七日目には口をパクパクさせて、おかゆがなくなるとおかわりをほしそうに泣いていました。そんなにおいしいのかな、と思っって私も妹のおかゆをすこしなめてみましたが、味がよく分かりませんでした。お母さんから、

「なめただけではわからないから、もう少し多く食べてみると味がわかるよ。」

と言われたので、もう少し多く食べてみました。すると、少しあまいお米の味がしました。わたしは妹がお米の味を気に入ってよく食べているのだと、うれしく思いました。

私がりんにゅう食をはじめた時のことをお母さんに聞いてみたら、りにゅう食をいやがるが多くて、食べさせるのが大へんだったそうで

す。それから小さいころのわたしは好ききらいも多くて大へんだっただけ
れど、小学校に入ってから、何でもよく食べるようになってしん長も
のびたと聞きました。

わたしは今ごはんが大好きです。ごはんをよく食べるようになってこ
こまで大きくなったので、妹もごはんをよく食べて大きくなってほしい
です。妹はまだりにゆう食だけど、一緒のごはんを食べれるようになる
日が今はとても楽しみです。